

令和3年度第1回座間市地下水採取審査委員会 会議録

1 期 間 令和3年8月6日（金）～9月6日（月）

2 場 所 書面会議

3 出席者 委 員 守田委員長、村田副委員長、宮下委員、青木委員
事務局 環境経済部長、環境政策課長、環境保全係長、主事1名

4 公開の可否 公開 一部公開 非公開

5 議 題

(1) 地下水総合調査について

(2) 令和元年、令和2年の地下水採取実績報告について

6 資 料

① 令和3年度 第1回 地下水採取審査委員会 資料 -令和2年度実績報告-

② 令和3年度 第1回 地下水採取審査委員会 資料 -令和3年度業務計画-

③ 令和元年地下水採取量等の総括

④ 令和2年地下水採取量等の総括

7 委員会意見等

	意見等	対応
委員長	<p>(1) 地下水総合調査について 資料①：全体として堅実な調査を行っている。地下水調査、河川水位調査、湧水位調査、いずれも妥当な結果を得ている。河川調査では、H-Q曲線が良好に取得されており、今後の水位観測から流量への返還が容易になる。 GETFLOWSの解析についても、妥当な手続きで行われており、7つのシナリオも適切である。特に、雨水浸透ますについて清掃も含めて検討している点は評価できる。リニアについては実質的な影響はないと判断していたが、解析結果もそのとおりである。今後、モデル化データの更新、再現性パラメータのさらなる調整が望まれる。 また、「地下水賦存量」という言葉が使われているが、明確な定義と算出方法について明らかにする必要がある。 資料②：本調査の最終年度となり、全体のまとめを行う。GETFLOWSのモデル検討と更新、最終調整が必要となるが、最も重要な作業、地下水管理指標の解析である。 地下水位や河川水位を観測するシステムをつくったが、座間市が今後どのように観測データを管理していくか、そしてそのデータを地下水管理指標としてどのように有効に活用していくか、という課題である。座間市が今後どう取り組むかという課題である。9月から地下水管理指標の解析にはいるが、業者と密に打合せをして方針を決める必要がある（委員長も当然加わる）。 (2) 地下水採取実績報告について 別に問題なし。</p>	<p>資料①：「地下水賦存量」については、定義等を明確にし、報告書に記載します。 資料②：地下水管理については、地下水管理指標の解析結果等を踏まえて、今後の対応について検討します。</p>
副委員長	<p>①地質データがない 柱状図データがない。よってどの層が加圧層になっているかわからない。 適宜パラメータで地下水位と湧水量からわかるとしているが・・・。 ②湧水高と湧水量の関係はH-Qにはならない。 河川水位と河川流量はH-Qになる。 ③地下水管理指標の設定とは・・・？</p>	<p>①柱状図を報告書には掲載した上で、加圧層についても明記します。 ②湧水のほとんどが側溝に流れ込んでいるため、H-Q曲線を作成して湧水量の変化を把握しました。 ③地下水を管理するための指標を検討します。現在は、深井戸A1号井の地下水位を利用して目標水位を定めていますが、この目標水位などの再検討を行います。</p>
委員	<p>資料① P27 7.2シナリオ解析について 都市化による地下浸透量の低下が台地部で見られ、地下水位が低下するとあり、図では座間市北部を中心とした同心円状の地下水位低下が示されています。この時、都市化したとして、浸透性を低下させたのは座間市域のみですか？それとも、解析範囲全体でしょうか？ 都市化が座間市域のみに生じるシナリオは考えにくく、台地全体で都市化した場合の影響が、座間市北部のみとも考えにくいことから、座間市域のみの浸透性を変化させたのだと思いますが、どうなっておりますでしょうか。 それではよろしく願いいたします。</p>	<p>・実施したシナリオ解析は、座間市のみ浸透性の変化としております。ご指摘のとおり、座間市だけの話ではないことは理解しております。 ・都市化は、座間市内の「水田」、「畑・果樹園」、「森林」がアスファルト化（浸透性の低下）したという設定としました。</p>